

東海木材相互・西部市場(愛知県海部郡飛島村木場、鈴木善一朗市場長)は6月21日、製品5780立方尺(外材除く)の出品量で初夏特別市を開催。1



西垣林業・名古屋市場(名古屋瑞穂区桃園町、中村智幸市売部長)は6月22日「第3回紀州材展」を開いた。115社の買い上げにより、売り上げは前年比13%減の1億620

0万円、平均単価は立方尺当たり11万円、来場者は70名だった。開市前に式典が行われ、西垣貴文副社長があいさつし「脱炭素社会へ向けて木材利用に注目が集まっている

と述べ、出荷主を代表し、(株)山收木材の山林敏巳社長が全量買い上げを呼びかけた。紀州材展の出品量は、地元の消費がおう盛なことから少なめだが、高齢樹の板や10

旭川林産協同組合(北海道旭川市、高橋秀樹理事長)の6月道産広葉樹銘木市(通算

山西あすなる会(阿部一雄会長)阿部建設(株)社長)の総会および講演会が24日午後1時30分から名古屋市熱田区の熱田神宮会館で開かれた。コロナ禍によ

り会場での対面会合は3年ぶりとなり、参加者を制限するなど規模を縮小して行われた。冒頭あいさつした阿部

会長(写真上)は「会長就任以来初の初のあいさつとなった。資材高騰、ウクライナ侵攻な

ど環境は激変している。また日本の平均年収は増えず、高齢化の進行により、将来の住宅需要は大幅に減少すると予測されている」と

と厳しい状況を挙げた。その上で、「情報収集や販売能力などの大きい山西さんとのパートナーを強め、自分で未来を切り開き、生き残りを図ることが大切だ」と、あすなる会会員の協力

「変化は続く、今が新常態」

山西あすなる会総会 情報交換さらに密に

愛知県でもこの地元産材利用の家づくりを推進する。また非住宅分野も新たな組織づくりが行われている。木造住宅の4号特例が変わり構造計算が必要になるなど新たな変化にも対応し、軸が触れるこ

「変化は続く、今が新常態」

制限を実施した。しかし顧客に迷惑をかけず安定価格、安定供給が70期を迎えた当社の基本指標であり、今後もそれを続けたい。世の中の変化は続くが、これが当たり前で新常態であると思うべきだ。

今後、仕事を増やすための仕組みづくりに努めたい。木造住宅の6割以上の需要を占めるケタ類など国産材利用を進める。高知県では官民共同でヒノキの家づくりを進めているが

「米国から見た今後の木材需要動向について」をテーマに1時間半余りにわたり講演した。

その上で「日本はウッドショック前から買い負けをしている。供給不足はこれから起き得る。こうした状況の中で大事なことは、仕入れ先、同業者同士の売り先などとの情報交換だろう。このあすなる会でもさらに協力を密にしていこうと必要だ」と述べた。



「変化は続く、今が新常態」

愛知県でもこの地元産材利用の家づくりを推進する。また非住宅分野も新たな組織づくりが行われている。木造住宅の4号特例が変わり構造計算が必要になるなど新たな変化にも対応し、軸が触れるこ

「変化は続く、今が新常態」

その上で「日本はウッドショック前から買い負けをしている。供給不足はこれから起き得る。こうした状況の中で大事なことは、仕入れ先、同業者同士の売り先などとの情報交換だろう。このあすなる会でもさらに協力を密にしていこうと必要だ」と述べた。